

# 「レントゲンフィルムの整理保管の改善」

— フィルム紛失を防ぐには —

クラーク：ミッキーマウス

望月しほみ・三村幹代

浅羽みゆき・池谷むつみ

酒井悟子・秋山加奈子

ミッキーマウスです。

私達のグループ名は、いつでもにこやかに対応できる様にというモットーに基づいてつけました。

テーマは、「レントゲンフィルムの整理保管の改善」病棟内での混入ミスを防ぐには、を上げました。

取り上げた理由は、時々撮影したはずのフィルムが見当たらずに探すのに大変な苦勞をします。そこで間違いなく整理保管し、見たい時に出し易くする方法はないか考えたからです。

## 目標設定

病棟での混入ミスをゼロにする。

レントゲンを探しやすくする。

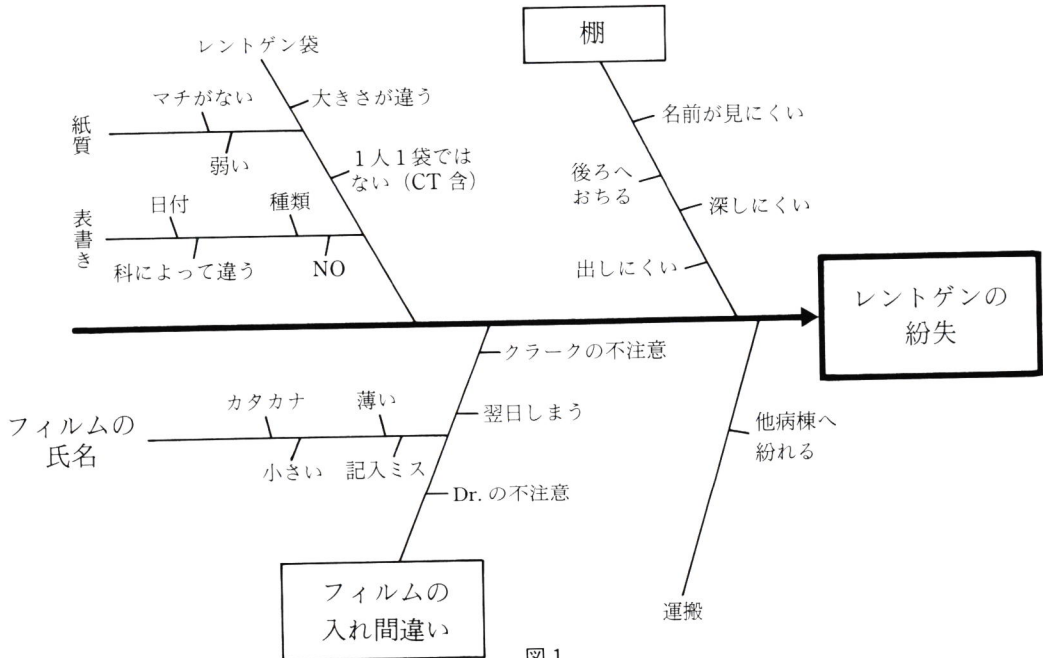


図1

## 現状把握

保管方法は各病棟バラバラです。

(図2・図3・図4・図5)



図2 5の1、5の2、7の1で採用している、たて入れDr別区分の棚



図3 8の1で採用している、横入れチーム別区分の棚



図4 8の2で採用している、引出しアイウエオ区分の棚



図5 別館で採用している、横入れDr別区分の棚

別館は本館に比べ、段数が少ないなど設備面で古く又横入れの為使いにくいのが、はっきりしました。

## 撮影したフィルムの流れ

撮影したフィルムは放射線科からメッセンジャーか助手により、病棟へ運ばれ、病棟内の決められた箱へ入れます。この箱の中から、Drが見たい物を取り出し、見たあとレントゲン袋へしまします。残っているものは、翌日クラークがしまします。その後カンファレンスなどでDrが出して使用し、Drにより元に戻されます。

この流れの中で、混入ミスは2つに分かれ

- ①病棟へ来て次の日袋へ入るまで
  - ②カンファレンス後2度目に袋へ入るまで
- 内科系と外科系では大きな差があり、内科系では、①と②の割合が8：2、外科系では2：8になっています。

1ヶ月間の紛失件数は、内科系病棟では10件前後ありました。

②についてはフィルムの出し入れがDrによってのみ行なわれ、クラークが関与することが少ないので、今回はクラークがかかわる①について内科系病棟と別館の棚の改善を考えました。

## 改善策

1. 病棟へ来たフィルムは当日それぞれの袋へしまう

Drの手元へ届く前に分類できれば、所在不明になってしまうというトラブルが避けられるのではないか、と考え、フィルムが病棟へ到着した時点で袋へ入れてしまう方法を考えました。しかし、この方法がDrに不利になると困るので、まず、次のようなアンケートを取りました。

フィルムは当日しまった方が良いか、今まで通り翌日の方が良いか。

結果は

当日 77% その理由は、前回のものと比べて、すぐ見ることができる

翌日 23% その理由は、袋から出さなくても見ることができる  
でした。

2. レントゲン受取りカードへ記入し、Drにすでにレントゲン袋へ入っていることを明記する。

改善策1の方法で、フィルム到着しだいで袋へ入れてしまったら、フィルムが病棟へあがってきているかどうか、確かめる方法がない、という欠点を生じたので、欠点を補う意味でレントゲン受取りカード(図6)を作成しました。

月 日

患者名	種類



図6 レントゲン受け取りカード

その結果、レントゲン受取りカードがあった方が  
良いが、85%を占め、どちらとも言えないは、15%  
2名にすぎませんでした。不便になったと答えた人は、0%でした。

3. 別館の棚は、たて入れDr別にする。

横入れは一段引き出した時、後ろへ中味がずり落ちてしまう。一人分取り出すのに、一段すべて出さないとうまく出ないなどの不便がある為、本館形式に習い、現在の棚を横にたおし、たて入れ方式に変更しました。(図7、図8)

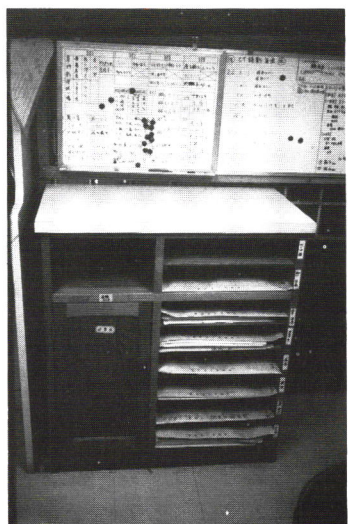


図7 B・3 変更前の棚



図8 変更後の棚

この結果、ほとんどの先生方に好評を得られました(図9)。

1カ月間のフィルム紛失件数を比較してみますと

5の1では、10件から1件

B・3では、7件から3件

と、減少しました。

### 歯 止 め

レントゲンフィルムの紛失の解消及びフィルム棚の見易さについて検討しました。

①袋へ当日収納する。

②フィルム受取りカードを使用する。

③フィルム棚の使用方法をたて入れDr別にす

る。  
以上の如く、病棟業務及び仕様を一部改善する事により、私達クラークは、時間を有効に使用出来る様になりました。

1年前と比べて見やすくなりましたか。

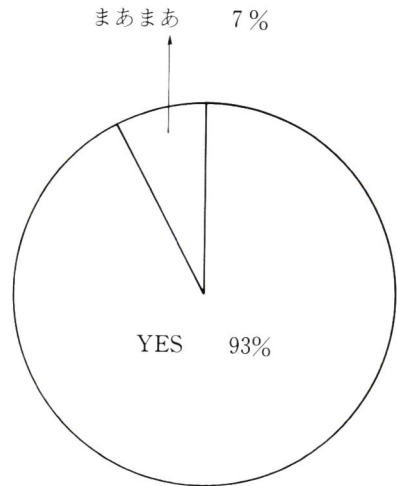


図9 『B-3の棚についてのアンケート』